

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	法政大学
整理番号	B17
構 想 名	課題解決先進国日本からサステイナブル社会を構想するグローバル大学の創成

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、これまで培ってきた教育力・研究力のさらなる強化を軸に「サステイナビリティ」をテーマに据え、多様な教育プログラムの展開や一層の研究が推進されたものとなっている。グローバル化に加え、大学のダイバーシティ推進にも積極的に取り組んだことで、学内で共修の場が形成され、グローバルマインドセットの涵養に寄与しているものとなっている。さらには、事業期間終了後も「大学改革」と「国際化」を継続して推進するため、包括的・一体的に管理し推進する体制が2024年ではあるが構築されたことも、今後の発展が期待できるものとなっている。 事業展開では、全学部生対象の学部横断型のサステイナビリティ・プログラムに加え、サステイナブル社会のための科目群の展開により教育研究が推進されており、受講者や設置数も着実に伸ばしている。さらには、日本人学生と外国人留学生が共創する「課題解決型フィールドワーク」実施により、多様なステークホルダーとの連携に繋がりと、多様な学びの機会が提供されたことと合わせて、外国人留学生に関しては100%混住型学生宿舎に入居するなどにより、学部や国籍を超えた交流・共修が可能となっている。その他、学生調査等のモニタリング結果を分析し、学修成果や教学組織の質の向上を図っていることや、外国人卒業生に進学アドバイザー業務を委嘱し、広報活動や入試制度に活用するといった学内リソースやネットワークの活用は、優れた取組みであると言える。 一方で、外部評価でも指摘されているように、事業期間での変化について学内での共有・発信等が十分であったとは言い難い。グローバリティとダイバーシティに着目した観点は優れているが、事業期間中においてはそれぞれ別の体制で動いており、一体的な体制となったのは事業期間終了後となっている。また、ダブル・ディグリーに関しては、上海外国語大学との受入れは順調に進んだものの学生の中で派遣を希望する実例がなかったことも残念である。学外への広報発信と合わせて、改善していただきたい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	